

早期介入(支援)による“親子の人生”の軌道修正

早期介入によって、子どもにおいては、“生きづらさの軌道修正”や“二次障害の防止”、養育者においては、“育てにくさの軽減”につながり、親子にとっては“関係悪化の阻止”が期待されます。

早期介入(支援)による“親子の人生”の軌道修正



Message

～愛育サポーターの方へメッセージ～

親は子どものお手本に、
支援者も親のお手本になりたいものです。(Y. ITO)

育児困難を感じている母親へ
寄り添う地域における支援への期待



Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

家庭やそれを取り巻く社会環境の変化

近年、晩婚・晩産化・少子化、核家族化、都市化・地域における地縁的なつながりの希薄化による家庭や地域社会の養育力が低下し、育児の孤立化が問題視されている。

無縁社会、一方で高度情報化社会であり、育児情報に関しての混乱も多い。

育児に関するサポートおよび情報の不足

→ 子育て最中に勃発する諸問題に対して、どう対応したらよいか？

子育ての情報源や相談相手

困ったこと・気になることに対する相談

どうしたらいいのかわからない・・・
自分たちのやり方がいけないのか？



支援者は、まずは良い聴き手、共感者になりましょう。ご自身の経験を押しつけず、一緒に解決策を考えましょう。そのためには、情報をアップデートする必要があります。

子育てにおいて地域の支えが重要

地域の支援者が子育て世代と信頼関係で結ばれるには、安全と安心感を与えることが大切です。子育てにおいては、お子さまを注意したり叱るというネガティブな関わりだけでなく、共感し提案すること、また些細なことでも頑張りを褒めてあげることが大切です。つまり期待、承認、応援していることが伝わるようなポジティブな関わりが良いとされています。皆さんが子育て世代との関わりの中でそれを実践し伝えて下さい。

育てにくいと感じる子どもとは



「育てにくい」子どもは、「子ども要因」があるだけでなく、「親要因」もあり、親子を取り囲む「生活背景要因」や「周囲のサポート状況」が育てにくさに関係し、「育てにくいと感じる」子どもということもあります。

発達特性から発達障害、発達障害から二次障害へのこじれ

こじれた段階での介入は容易ではなく、早期介入が望まれます。

